

鎌倉市スマートシティ 令和4年度事業計画

<令和4年度 取組の方向性>

令和3年度末に策定した鎌倉市スマートシティ構想に基づき、リーディングプロジェクトを中心に、産官学民によるスマートシティサービスの実証、実装に向けた具体的な仕組みづくりを進める。

令和4年度は、本市のスマートシティの重要な要素である「市民起点」を実現するため、より幅広い市民の意見を政策に生かす「合意形成プラットフォーム」の構築を進める。また市民の Well-Being 向上（インパクト）を最終ゴールに位置付け、年間を通して市民対話を展開するとともに、データ連携基盤の整備と「スマートシティサービス」の実証等を並行して進めていく。

<内容>

【柱1】多くの市民が参加できる合意形成プラットフォームの構築

従来から行ってきたオンライン・オフラインの市民対話と、デジタル技術を活用した新たなプラットフォームを組み合わせ、より幅広い市民の意見を政策に生かす「合意形成プラットフォーム」を構築し、運用を開始する。

【柱2】データ連携基盤の整備・オープンデータの拡充

- (1) 総務省所管「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」への応募
地域課題の解決や地域活性化・地方創生の実現に向けて整備するデータ連携基盤の初期投資等の経費補助を目的とした総務省事業に応募し、財政支援を受ける。
(令和4年5月16日応募済み)
- (2) データ連携基盤の構築・運用開始
令和4年度は、サービス間のデータ連携を実現するための最低限の機能として、データの仲介機能、認証・認可機能、API ゲートウェイ機能等を具備するデータ連携基盤を構築し、令和4年度選定・実証予定のスマートシティサービスを接続し、運用を開始する。なお、オープンデータのみを扱う基盤として整備するため、パーソナルデータは扱わない。

【柱3】官民協業のユースケース等の創出とスマートシティサービスの実証

- (1) 官民協業のユースケースの創出
リーディングプロジェクトとして、「防災・減災」、「交通・混雑」の分野においてスマートシティサービスの実証を行うため、スマートシティ庁内検討委員会に部会を、またスマートシティ官民研究会に分科会を設置し、相互に連携を図り、以下のとおりユースケース（事例）等の創出を進める。

- ア 最終ゴールである市民の Well-Being 向上からバックキャストし、目的（課題）及びゴール（成果）を企画
 - イ 目的及びゴールを達成するためのユースケースを検討
 - ウ ユースケースの実施に必要なデータの特定及び提供・交換可能なデータの検討
- (2) スマートシティサービスの実証
- (1) のユースケース等を踏まえ、データ連携基盤を利活用したスマートシティサービスの実証及びモデル事業の選定・実施を行う。

【柱4】戦略的広報と調査・研究の推進

- (1) 鎌倉市公式 note「ナルホド事始め」等による継続的な情報発信
鎌倉市公式 note「ナルホド事始め」にスマートシティプロジェクトを立ち上げ、優れた取組の発信、ステークホルダーへのインタビュー、イベント等に関する情報を継続的に発信し、市民の鎌倉市スマートシティの取組に対する認知度向上に取り組む。
- (2) Liveable Well-Being City Indicator（住みやすさと幸福度の指標）の実装
合意形成プラットフォームによるリーディングプロジェクトの検討・抽出の過程や、スマートシティ庁内検討委員会及びスマートシティ官民研究会で企画する勉強会において、Liveable Well-Being City Indicator を活用し、本市のスマートシティの KGI として実装を進める。

<スケジュール>

別表のとおり

○ スケジュール(令和4年度事業計画)

資料③

